

136 きたにしのくほ 北西ノ久保の石造塔婆群 せきぞうとうばぐん



指定 市史跡 昭和49年12月1日
 所在地 岩村田
 所有者 信州短期大学



昭和41年（1966）に所有者の井上行雄氏がリング園の耕作中に偶然発見したもので、下記の塔婆類が鉤の手状に規則正しく配列されていた。

五輪塔 3、一石五輪塔 1、笠塔婆 3、異形塔婆 3、板碑形塔婆 3、不明石器 5。

中世石造墳墓には、供養のための石造塔婆と、石塔の一部を納骨器とした墓の2種類があり、長野県下、とりわけ東信地区にはこの種の塔婆が多く存在していた。墳墓様式や考古学的分野から、特に注目すべきものがこの石造塔婆群であって、中世墳墓の埋葬形態、供養方法の実態を明らかにする上から大切な資料である。

中でも五輪塔は古い様式をもつもので、総合的に鎌倉中期より下らない時期に築造されたものと考えられ、被葬者を根井氏一族とする説、大井氏一族とする二つの説がある。

さらに昭和51年（1976）に至って同地から、宋銭が数個発見されたことも、注目に値すべき事柄である。